

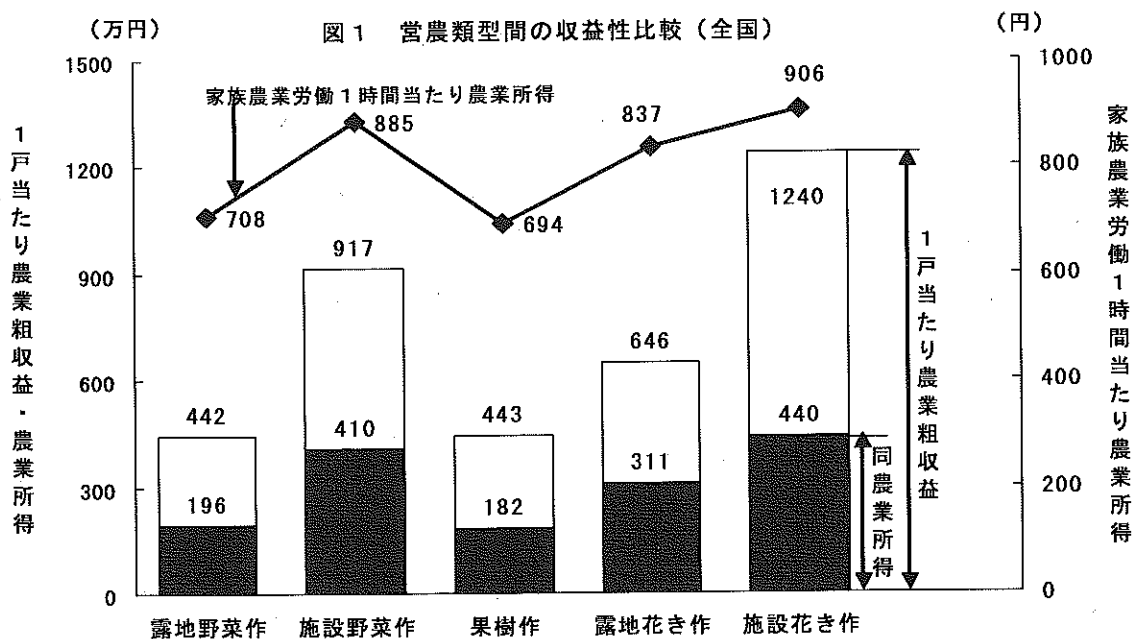
# I 調査結果の概要

# 1 営農類型別結果

## (1) 全国平均値 (表1、図1参照)

平成16年の野菜作(露地・施設別)、果樹作及び花き作(露地・施設別)経営の1戸当たり農業粗収益は、施設花き作経営が1,240万円以最も高く、次いで施設野菜作経営が917万円、露地花き作経営が646万円、果樹作経営が443万円、露地野菜作経営が442万円となっており、施設経営の農業粗収益が高くなっている。また、農業粗収益から農業経営費を差し引いた1戸当たりの農業所得をみても施設花き作経営が440万円以最も高く、次いで施設野菜作経営が410万円となっている。

しかし、家族農業労働1時間当たり農業所得では、営農類型間には1戸当たり農業所得ほどの差は生じていない。



(参考) 1戸当たりの経営耕地面積

営農類型	単位: a				
	露地野菜作	施設野菜作	果樹作	露地花き作	施設花き作
経営耕地	172	216	146	166	143

表1 野菜作(露地・施設)・果樹作・花き作(露地・施設)経営農家の経営概要(全国)

単位: 千円

区分	露地野菜作	施設野菜作	果樹作	露地花き作	施設花き作
農業粗収益	4,419	9,165	4,425	6,462	12,402
農業経営費	2,462	5,070	2,602	3,355	7,999
農業所得	1,957	4,095	1,823	3,107	4,403
(参考) 共済・補助金等を除いた農業所得	1,870	3,841	1,740	3,071	4,298
農業生産関連事業所得	5	9	2	△1	15
農外所得	1,951	805	1,538	1,431	1,237
年金等の収入	1,547	981	1,551	1,212	943
総所得	5,460	5,890	4,914	5,749	6,598
家族農業労働1時間当たり農業所得(円)	708	885	694	837	906
経営概況					
月平均農業経営関与者(人)	2.28	2.52	2.29	2.40	2.68
経営耕地面積(a)	172	216	146	166	143
自営農業労働時間(時間)	2,897	5,112	2,845	4,201	5,848

(2) 農業所得への依存が高い経営の概要（専ら農業で生計を立てている階層）

各営農類型を専ら農業で生計を立てている階層として総所得に占める農業所得の割合が80%以上の階層で比較すると、それぞれ農業所得が600万円を超える階層である。

なお、全国の販売農家の約6割を占める水田作経営についても同様の基準で階層を選んで比較対象とした。（表2参照）

表2 耕種営農類型の作付規模別の所得比較（全国・1戸当たり）

区分	農業所得 千円	総所得 千円	総所得に 占める 農業所得 割合 %	区分	農業所得 千円	総所得 千円	総所得に 占める 農業所得 割合 %
露地野菜作経営				露地花き作経営			
平 均	1 957	5 460	35.8	平 均	3 107	5 749	54.0
0.5 ha 未満	874	4 627	18.9	0.3 ha 未満	1 222	3 923	31.1
0.5 ~ 1.0	1 879	5 980	31.4	0.3 ~ 0.5	2 714	4 762	57.0
1.0 ~ 2.0	3 768	6 158	61.2	0.5 ~ 1.0	2 742	4 846	56.6
2.0 ~ 3.0	6 883	8 021	85.8	1.0 ~ 2.0	5 511	9 641	57.2
3.0 ~ 5.0	8 337	9 450	88.2	2.0 ha 以上	6 997	8 374	83.6
5.0 ~ 7.0	11 175	12 742	87.7	施設花き作経営			
7.0ha 以上	14 037	15 037	93.3	平 均	4 403	6 598	66.7
施設野菜作経営				2000 m <sup>2</sup> 未満	1 718	4 738	36.3
平 均	4 095	5 890	69.5	2000 ~ 3000	3 171	5 775	54.9
2000 m <sup>2</sup> 未満	1 975	4 327	45.6	3000 ~ 5000	5 202	6 755	77.0
2000 ~ 3000	3 893	5 284	73.7	5000 ~ 10000	6 960	8 224	84.6
3000 ~ 5000	5 144	6 630	77.6	10000 m <sup>2</sup> 以上	12 339	13 874	88.9
5000 ~ 10000	6 655	8 252	80.6	水田作経営			
10000 ~ 20000	8 357	9 083	92.0	平 均	392	4 929	8.0
20000 m <sup>2</sup> 以上	9 865	10 933	90.2	0.5 ha 未満	△ 78	4 992	...
果樹作経営				}	}	}	}
平 均	1 823	4 914	37.1	3.0 ~ 5.0	1 976	5 134	38.5
0.5 ha 未満	739	4 628	16.0	5.0 ~ 7.0	3 205	5 659	56.6
0.5 ~ 1.0	1 583	5 029	31.5	7.0 ~ 10.0	3 676	5 339	68.9
1.0 ~ 2.0	3 179	5 041	63.1	10.0 ~ 15.0	4 956	7 063	70.2
2.0 ~ 3.0	3 945	4 992	79.0	15.0 ~ 20.0	7 472	8 430	88.6
3.0 ha 以上	6 224	7 482	83.2	20.0 ha 以上	12 204	13 495	90.4

注： 水田作の該当階層の農業所得は747万円であるが、その下の階層は、総所得に占める農業所得の割合が80%を切っており、また農業所得も496万円であるため、便宜上、この階層を比較対象とした。

各営農類型ごとに比較対象とした階層の経営耕地面積は、施設花き作経営が165 a で最も少なく、次いで施設野菜作経営が284 a となり、最も経営規模が大きいのは水田作経営で1,898 a となっている。（図2参照）

一方、1戸当たり自営農業労働時間は、水田作経営が3,633時間で最も少なく、施設花き作経営が水田作経営の2倍以上の8,299時間と最も多い。このため、家族農業労働1時間当たり農業所得は水田作経営が2,266円で最も高く、野菜作・果樹作・花き作経営は1,000円台の前半であり、特に施設花き作経営は1,087円で最も低くなっている。

このように各営農類型間の生産性に差が生じているのは、それぞれの作物の特性による（野菜、果樹、花きは収穫時期に収穫をほぼ毎日行う等。）ところもあるが、水田作の主力である米、麦、豆類等の栽培において、収穫作業を中心に機械化が進展していることも大きな要因となっている。ちなみに1戸当たり農機具固定資産額を比較すると、水田作以外の営農類型が150万円～250万円であるのに対し、水田作経営は929万円となっている。（図2、3参照）

図2 営農類型別にみた経営耕地面積と労働生産性（全国）

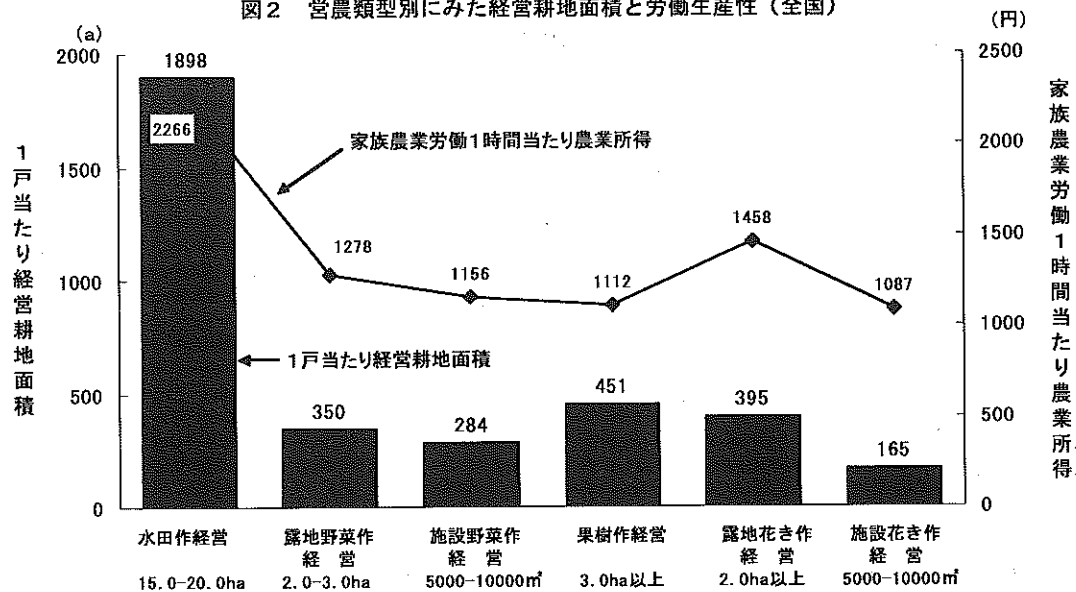
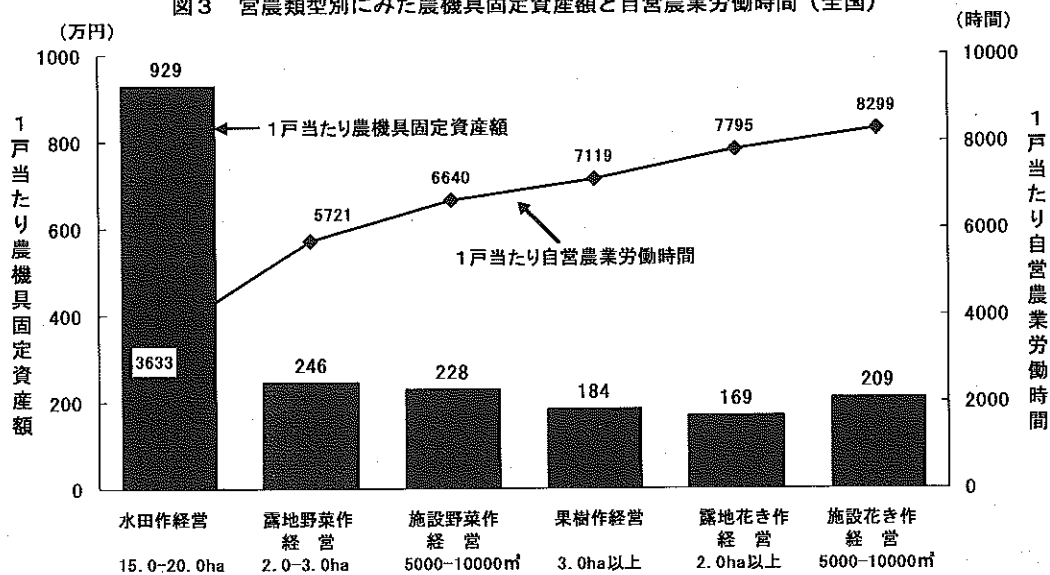


図3 営農類型別にみた農機具固定資産額と自営農業労働時間（全国）



## 2 各営農類型別の部門別結果

### (1) 野菜作（露地野菜作経営及び施設野菜作経営）

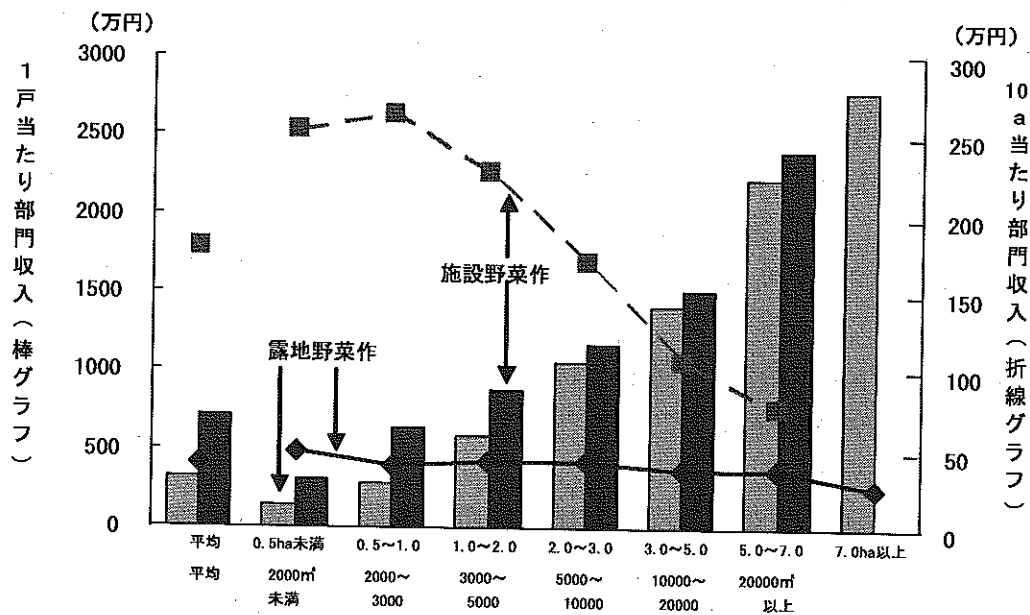
露地野菜作経営の露地野菜作部門収入（以下、「露地収入」という。）と施設野菜作経営の施設野菜作部門収入（以下、「施設収入」という。）について、平成16年全国平均の1戸当たりで比較すると、施設収入が707万円、露地収入が320万円となっており、これを該当部門作付面積10a当たり（統計表上の施設は1,000㎡当たりで表示。）でみると、施設収入が179万円であるのに対し、露地収入は42万円となっている。

また、両部門の1戸当たり部門収入は作付規模が大きくなることに伴い増加するが、10a当たりでみると、両部門共に規模が大きくなることに伴いおおむね減少し、特に施設収入の最も大きい規模階層（20,000㎡以上層）は2,000㎡未満層の約3割の水準となっている。（図4参照）

これを、該当部門労働1時間当たり収入でみると、規模が大きくなるほど増加している。これは、経営規模が大きいほど労働力とのバランスから労働生産性の高い品目の作付割合が高まっていることによるものであり、両部門共に作付規模が大きくなることに伴い10a当たり農業労働時間が大きく減少している。（図5参照）

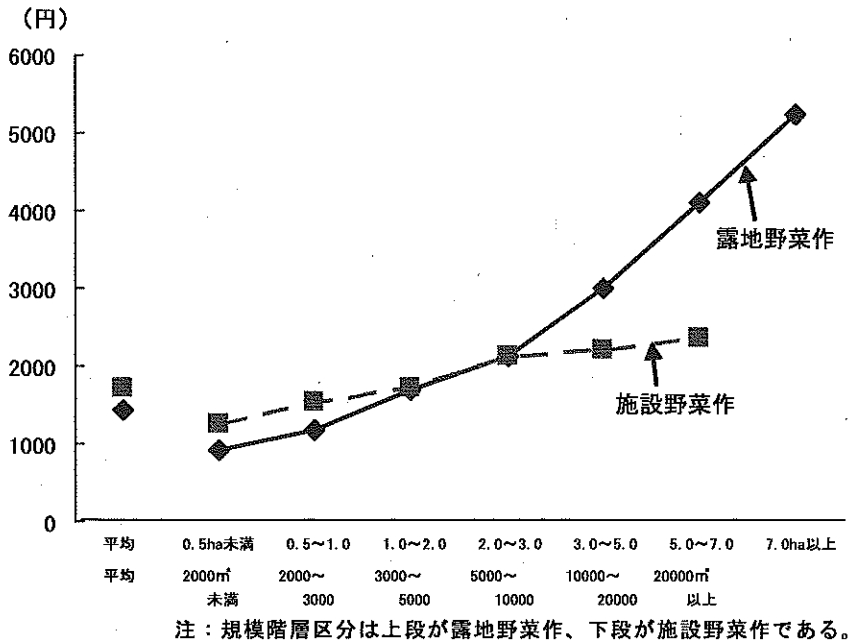
なお、これらを部門所得でみてもおおむね同様の傾向を示している。

図4 部門作付面積規模別にみた部門収入（全国）



注：規模階層区分は上段が露地野菜作、下段が施設野菜作である。

図5 部門作付面積規模別にみた1時間当たり部門収入(全国)



(2) 果樹作(りんご作経営、みかん作経営、ぶどう作経営、なし作経営及びもも作経営)

ア 部門別にみた作付面積10a当たり収入及び所得(図6参照)

該当部門植栽面積10a当たり部門収入について16年の全国平均で比較すると、ぶどう作部門収入が72万円で最も高く、もも作部門収入が57万円、なし作部門収入が55万円、みかん作部門収入が44万円と続き、りんご作部門収入が38万円で最も低くなっている。

これを各部門の植栽面積規模別にみても、ぶどう作部門収入が最も高く、もも作部門となし作部門収入が階層によって2位を分け合うものの、平均とほぼ同様の傾向を示している。(図6参照)

なお、これらを10a当たり部門所得でみてもおおむね同様の傾向を示している。

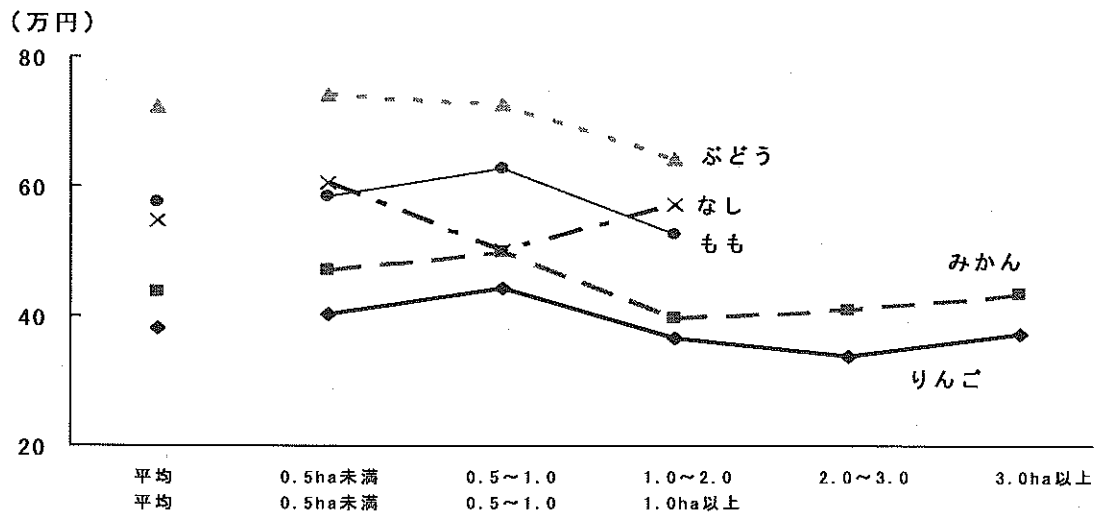
イ 部門別にみた該当部門労働1時間当たり収入及び所得(図7参照)

該当部門労働1時間当たり部門収入について16年の全国平均で比較すると、もも作部門収入が1,852円で最も高く、みかん作部門収入が1,812円、ぶどう作部門収入が1,528円と続き、なし作部門とりんご作部門収入が1,450~1,460円でほぼ同水準となった。

これを各部門の植栽面積規模別にみると、部門間の順位はおおむね同様となるが、各部門共に規模が大きくなることに伴い労働生産性が向上している。

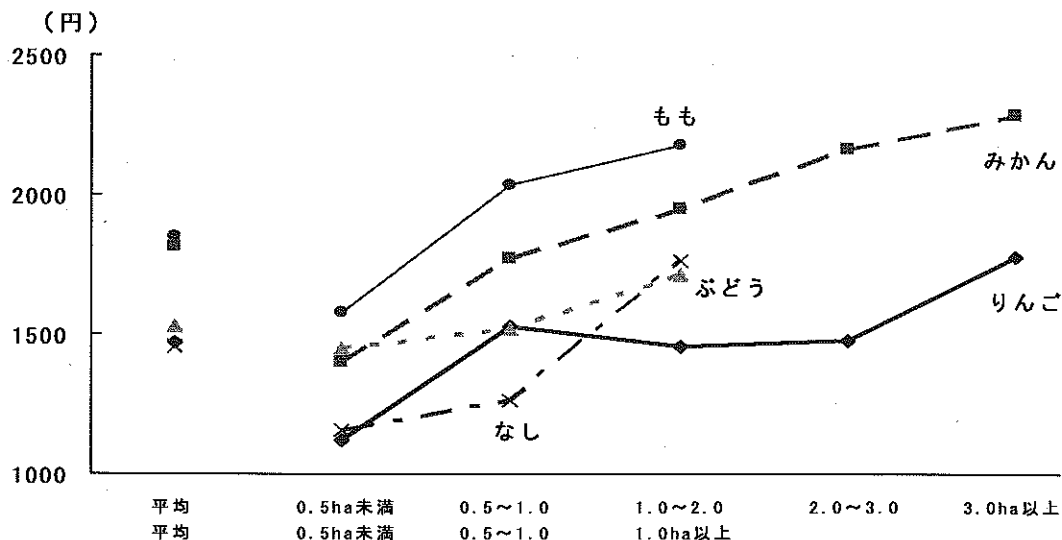
なお、これらを該当部門家族労働1時間当たり部門所得でみると、所得率の違いから若干順位が変動するものの、やはりもも作部門所得が最も高くなっている。

図6 部門植栽面積規模別にみた10a当たり部門収入（全国）



注：規模階層区分は、上段がりんご及び温州みかん、下段がぶどう、日本なし及びももである。（以下の図7において同じ。）

図7 部門植栽面積規模別にみた1時間当たり部門収入（全国）



### (3) 花き作（露地花き作経営及び施設花き作経営）

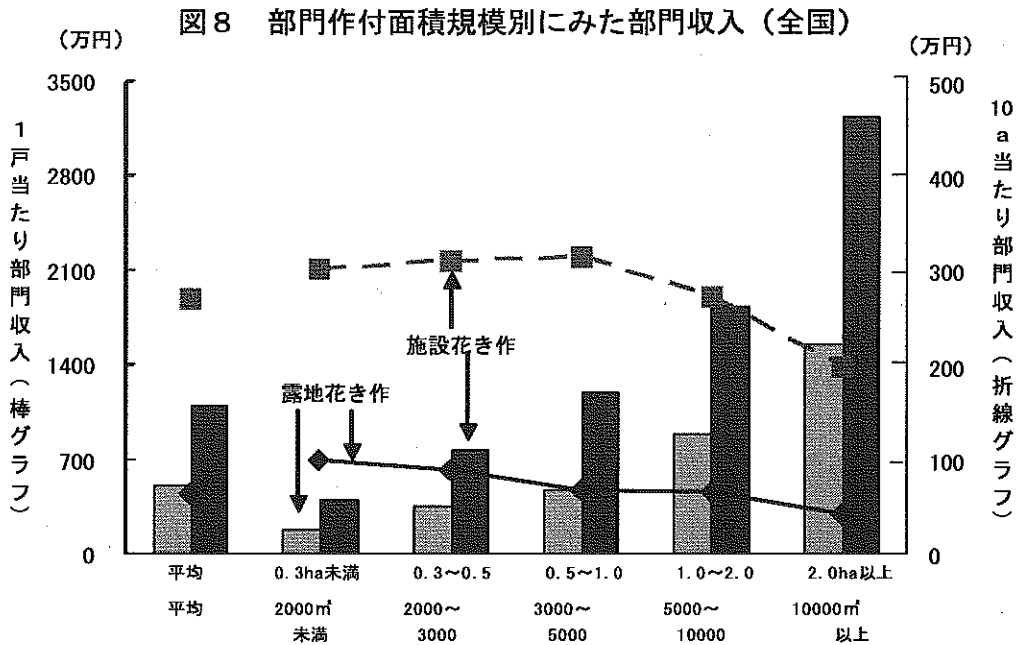
露地花き作経営の露地花き作部門収入（以下、「露地収入」という。）と施設花き作経営の施設花き作部門収入（以下、「施設収入」という。）について、平成16年全国平均の1戸当たりで比較すると、施設収入が1,087万円、露地収入が505万円となっており、これを該当部門作付面積10a当たり（統計表上の施設は1,000㎡当たりで表示。）で見ると、施設収入が271万円であるのに対し、露地収入は64万円となっている。

また、両部門の1戸当たり部門収入は、作付規模が大きくなることに伴い増加するが、10a当たりで見ると、施設花き作経営は5,000㎡階層までは300万円強で推移するものの、両部門共におおむね規模が大きくなることに伴い減少し、特に露地花き作経営の2.0ha以

上層は42万円で、0.3ha未満層の約4割の水準となっている。(図8参照)

これを、該当部門労働1時間当たり収入で見ると、規模が大きくなるほど増加している。これは、野菜作経営と同様に経営規模が大きいほど労働力とのバランスから労働生産性の高い品目の作付割合が高まっていることによるものであり、両部門共に規模が大きくなるに伴い10a当たり農業労働時間が大きく減少している。(図9参照)

なお、これらを部門所得でもみてもおおむね同様の傾向を示している。



注：規模階層区分は、上段が露地花き作、下段が施設花き作である。(以下の図9において同じ。)

